

●手賀沼水面鳥類センサス結果

調査日:2011年3月16日、4月14日、5月11日(9:00~13:00)

科名	種名	個体数 (3月)	(4月)	(5月)
カイツブリ科	カイツブリ	24	27	17
	ハジロカイツブリ	2	0	1
	カンムリカイツブリ	26	1	0
ウ科	カワウ	36	99	55
サギ科	ゴイサギ	1	0	2
	アマサギ	0	0	1
	ダイサギ	7	6	2
	チュウサギ	0	1	0
	コサギ	15	7	2
	アオサギ	9	15	2
カモ科	コブハクチョウ	31	26	28
	マガモ	20	0	1
	カルガモ	57	49	23
	コガモ	77	10	16
	オナガガモ	88	0	0
	キンクロハジロ	1	1	0
ミコアイサ	2	0	0	
タカ科	トビ	1	0	0
クイナ科	バン	1	1	2
	オオバン	74	105	18
シギ科	イソシギ	0	0	1
カモメ科	ユリカモメ	91	10	0
	セグロカモメ	18	3	0
	コアシサシ	0	0	13
カワセミ科	カワセミ	2	2	1
ツバメ科	ツバメ	0	1	0
セキレイ科	ハクセキレイ	0	2	0
	セグロセキレイ	0	1	0
カラス科	ハシボソガラス	11	5	1
家禽や外来種	バリケン	4	0	4
	アヒル	2	3	3
	ドバト	35	0	0
合計	32種	635	375	193

●岡発戸の谷津田鳥類センサス結果

調査日:2011年3月19日、4月14日、5月13日(9:00~12:00)

科名	種名	個体数 (3月)	(4月)	(5月)
ウ科	カワウ	0	0	1
サギ科	ダイサギ	1	0	0
	コサギ	1	0	0
	アオサギ	0	0	1
タカ科	トビ	1	0	1
ハヤブサ科	ハヤブサ科種不明	1	0	0
カモ科	カルガモ	0	0	1
キジ科	キジ	2	7	13
ハト科	キジバト	7	1	5
カワセミ科	カワセミ	0	0	1
キツツキ科	コグラ	1	4	6
ツバメ科	ツバメ	0	3	4
セキレイ科	キセキレイ	0	0	0
	ハクセキレイ	2	3	2
	セグロセキレイ	1	2	2
	ピンズイ	0	2	0
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	7	34	20
モズ科	モズ	3	2	1
ヒタキ科	ジョウビタキ	2	0	0
	ルリビタキ	0	0	0
	ヒタキ科種不明	0	0	0
ツグミ科	アカハラ	1	0	0
	シロハラ	4	1	0
	ツグミ	8	1	0
	ツグミ科種不明	3	2	0
ウグイス科	ウグイス	8	6	6
エナガ科	エナガ	3	5	4
シジュウカラ科	ヤマガラ	0	2	1
	シジュウカラ	5	4	8
メジロ科	メジロ	2	4	1
ホオジロ科	ホオジロ	5	6	7
	カシラダカ	0	0	0
アトリ科	アオジ	33	29	0
	カワラヒワ	13	7	7
ハタオリドリ科	ベニマシコ	3	0	0
	シメ	2	2	0
ムクドリ科	スズメ	17	0	15
カラス科	ムクドリ	0	1	28
	カケス	1	4	0
	ハシボソガラス	8	4	3
家禽や外来種	ハシブトガラス	3	5	12
	コジュケイ	0	3	0
合計	42種	148	144	150

あびこ鳥だより

SUMMER
2011
【夏号】

ABIKO BIRD MUSEUM LETTER Vol.26



<目次>

特集ページ・・・・・・・・・・ 2

コブハクチョウの灰色のヒナと白いヒナの不思議

最新情報・・・・・・・・・・ 3

新企画展「ジオラマで見る鳥のくらし」スタート！
鳥類研究者によるテーマトークスタート好評開催中
夏休み期間中のイベントに参加しませんか

イベント情報・・・・・・・・ 3

夏の夕暮りに鳴く虫たちの声と姿を楽しもう

我孫子市鳥類調査結果・・・・ 4

表紙の鳥 カワセミ

写真提供 仲澤成二さん

利用案内

- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)
館内整理日、年末年始(12/29~31、1/1~4)
- 入館料

区分	個人	団体(20名以上)
一般	300円	240円
高校生、大学生	200円	160円
小・中学生	100円	80円

*以下の方は入館料が免除されます

- ①70歳以上の方 ②障害者手帳をお持ちの方(付き添い1名含む)

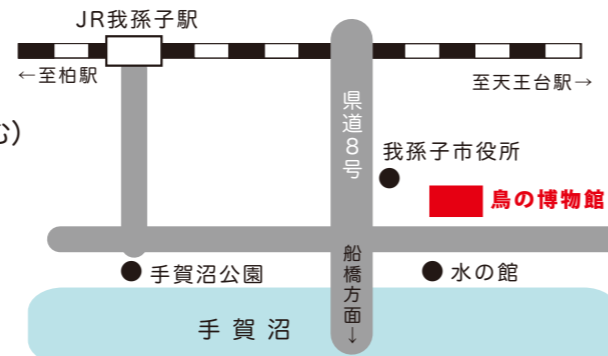
●お問い合わせ：我孫子市鳥の博物館

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山234-3
☎:04-7185-2212 FAX:04-7185-0639
ホームページ: <http://www.bird-mus.abiko.chiba.jp/>

交通案内

- 電車とバス利用
JR 我孫子駅下車、我孫子駅南口バス停より市役所経由バスで「市役所」下車、徒歩5分
*毎週土日祝日は博物館行きのバスが運行しています
我孫子駅南口バス停より、天王台行きバスで「鳥の博物館」下車
天王台駅南口バス停より、我孫子駅行きバスで「鳥の博物館」下車

- 自動車利用の方は地図をご覧ください(駐車場あり)



「コブハクチョウの灰色のヒナと白いヒナの不思議」

アンデルセンの童話「みにくいアヒルの子」で仲間はずれにされたヒナ鳥は、めでたくハクチョウになりました。この話の舞台となったデンマークで繁殖するハクチョウといえばコブハクチョウで、「みにくいアヒルの子」のモチーフは本種であると考えられます。上品なグレーの幼綿羽につつまれたヒナですが、遠目にはうす汚れて見えたのでしょうか。

コブハクチョウは、主に西ヨーロッパに生息する水鳥ですが、人に運ばれ飼育され、結果的に野に放たれ、今では世界中の沼や池で見られるようになりました。手賀沼でもおなじみの鳥で、その数も我孫子市の鳥オオバンにせまる勢いで増殖中です。毎年4月下旬からベビーラッシュが始まり、両親に守られた「みにくいあひるの子」たちがたくさん見られるようになります。

さて、これらコブハクチョウのヒナの兄弟には、灰色の「みにくいアヒルの子」タイプと白いタイプの二型があることは、すでにお気づきの方も多はず（写真1）。このことは、既に1868年（明治1年）にスイスのジュネーブ湖で記録されています。また、ヨーロッパのコブハクチョウは、東方のポーランドに近づくほど白いヒナが出現する割合が多くなるため、白いヒナはポーリッシュタイプと呼ばれています。



写真1 灰色のヒナ（左2羽）と白色ヒナ（右3羽）

コブハクチョウは北アメリカにも運び込まれ野生化しており、1968年にロードアイランド大学（アメリカ）の研究者が、灰色タイプと白色タイプが発現する遺伝的なしくみを研究しています（Munro, R. E. et al 1986）。

灰色タイプと白色タイプは、ヒナの時期の羽色のちがいを表していますが、成鳥になっても脚の色を見れば区別がつかます。灰色タイプの脚は黒色であるのに対して、白色タイプの脚はピンク色です（写真2）。

両親の脚の色からそれぞれのタイプを見分けた上で、その子どもたちのタイプを見れば、羽色の型がどのように遺伝しているのか見当がつかます。これは、古典的なメンデル遺伝の法則に基づいています。このような調査をした結果、灰色タイプが優勢の伴



写真2 ピンクの脚の白色タイプ（左）と黒い脚の灰色タイプ（右）

性遺伝であることがわかりました。

鳥類の雌雄を決める性染色体は、ZとWの二種類があります。父親からZ、母親からもZを受け取るとZZ（ホモ＝同形配偶子性）でオスになり、母親からWを受け取るとZW（ヘテロ＝異形配偶子性）でメスとなります。オスである父親は、その子どもにZしか受け渡せません（図1）。

♂	Z	Z	
♀	Z	W	
	Z	Z	♂
	Z	W	♀

図1 鳥の性染色体組合せ

この研究では、灰色タイプの遺伝子はZ染色体に乗っていると予想されました。そして実際に、白色タイプのオス親と灰色タイプのメス親の間には、灰色タイプ優勢の伴性遺伝の理論どおり灰色のオスと白色のメスが産まれることが確かめられました（図2）。

手賀沼のコブハクチョウ家族を見かけたら、両親の脚の色とヒナの羽色を比べて、組合せを確かめてみましょう。

♂	a	a	
♀	A	a	
	A	a	♂
	-	a	♀

A：灰色（優勢）、a：白（劣性）

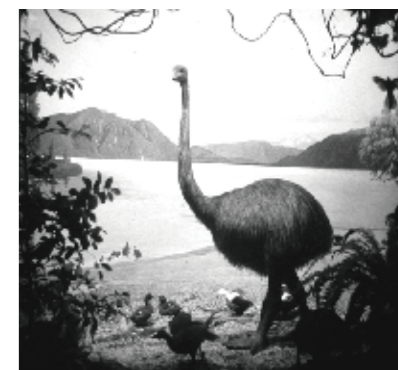
図2 オス白色タイプとメス灰色タイプのペアー
*産まれる子どもの組合せは、オスならば灰色タイプ、メスならば白色タイプ

(引用文献) Munro, R.E. et al 1986. The genetic basis of color differences observed in the Mute Swan (Cygnus olor). Auk, 58:58:504-505.

第60回企画展「ジオラマで見る鳥の暮らし」がスタート！

ジオラマとは模型と背景を組み合わせ、遠近法を使って立体的に表現する手法です。ジオラマは剥製作りと関連深いことから自然史博物館とつながりが強く、生物とその生活環境を同時に見せることができるので、生態展示をするのに効果的な表現方法です。

今回の企画展は収蔵するジオラマを使い、身近な鳥たちの暮らしを解説します。本来、ジオラマは背景画と前景の模型で作られるものですが、今回の企画展では鳥の生活シーンの一部を切り取って展示するというので、背景画がない展示もジオラマとして紹介しています。



ジオラマの例（ニューヨーク自然史博物館）

開催期間：7/16（土）～10/23（日）

山階鳥類研究所所員によるテーマトーク好評開催中！

5月のテーマは「正倉院宝物バードウォッチング」で、鳥が描かれている正倉院の収蔵品を紹介していただきました。6月はクマタカの最新のDNA研究についてのお話でした。7月のテーマは「小笠原へのアホウドリ再導入プロジェクト」です。ぜひご参加ください。

開催日：毎月第2土曜日 13:15～13:45（定員50名）

*テーマトークには整理券が必要です【配布場所：1階窓口 当日午前11時より配布】

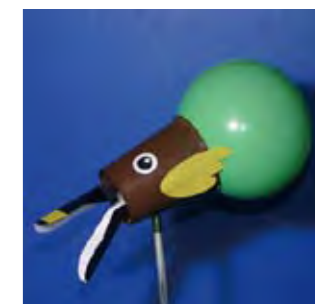


6月のテーマトークの様子

夏休み期間中のイベントに参加しませんか？

小・中学生を対象にした工作教室「夏の遊びと研究大集合2011」を開催します。今年はカモ笛やカモメのモビール作りのほか、身近な素材を使った草木染め、クマムシの観察など盛りだくさんの内容です。詳細は鳥の博物館ホームページまたは我孫子市広報7月16日号をご覧ください。

また夏休み期間中、鳥の博物館友の会の皆様のご協力で、カワセミの生態写真や標本を集めた「カワセミの小部屋」がオープンします。ぜひご来館ください。



ブーブーカモ笛で鳥の鳴くしくみを学ぼう！

イベント情報

*館内イベントは参加無料でも入館料が必要です

●自然観察会

○てがたん～手賀沼定例探鳥会～

時間：10:00～12:00
集合場所：博物館玄関（予約不要）
7月9日（土） 「クモと虫」
8月13日（土） 「セミの観察」
9月10日（土） 「トンボとバッタ」

○あびこ観察隊 鳴く虫観察会

日時：8月27日（土）17:00～19:00
集合場所：鳥の博物館
定員先着30名（要電話予約）
申込み：我孫子市鳥の博物館 04-7185-2212
*8月16日より申込み受付開始

*自然観察会は高校生以上の方は保険料1000円が必要です

●講演・座談会

○とりはくティーパーティー

日時：8月6日 13:30～15:00
場所：博物館友の会ルーム（参加無料・予約不要）
テーマ・話題提供者：未定

○テーマトーク

時間：毎月第2土曜日 13:15～13:45
場所：博物館友の会ルーム（参加無料・要整理券）
講師：山階鳥類研究所研究員

●工作教室

○夏の遊びと研究大集合2011

日時：7月23日～8月28日の期間中毎週土日
①10:30～②13:30～（各1時間程度）
場所：鳥の博物館（参加無料・予約不要）

*定員があるイベントもあります

2011年7月～9月